

地域戦略協働プロジェクト

中山間地が多い広島県では、水田の畦畔は 9.5%を占め、畦畔の草刈りは重労働となっていて、水田営農の大きな問題となっています。近年、これらの畦畔管理を省力化するカバープランツ（被覆植物）としてセンチピードグラス（和名：ムカデ芝）が強い生育力をもつことなどから注目され、全国各地で導入が進んでいます。従来の方法である手植えは時間と労力がかかることから、吹き付け播種が有望視されていますが、さらなる効率化を目指し、**三原市との協働事業では、薄型ゲル状シートによるセンチピードグラス播種方法の開発を目指しています**（代表者 生命環境学部教授 入船浩平）。実際の播種作業には地域の方々との連携が必須であり、このような実践の場に学生が参加することは学生にとって研究開発の意義を理解するにとどまらず、地域の実情や地域の方々との交流ができる貴重な体験となっています。下の写真は 2016 年 6 月 4 日、キャンパスのある庄原市内の高地区において地域の方々と生命環境学部 3 年生 3 名が参加しておこなわれたセンチピードグラスの試験播種作業のようすです。

